

住宅財市場を明示的に取り扱った モデルにおける

金融政策ルール変更の可能性¹

—資本市場の不完全性を含んだ

動学的確率的一般均衡モデルでの理論的研究—

慶應義塾大学 経済学部

廣瀬康生研究会 第一期

4年 31組 学籍番号 20809472

齋藤 ゆき彦

¹ 本論文は、筆者が、2011年度大学卒業論文として執筆したものである。本論文に関して、慶應義塾大学経済学部廣瀬康生准教授をはじめ、廣瀬康生研究会各位より、有益なコメントを頂戴した。ここに感謝の意を記す。また、本論文における、誤りや主張の一切は、筆者個人に帰するものである。

要約

本論文では、資本市場の不完全性を考慮したモデルにおいて、特に住宅を明示的に取り扱ったモデルにおける、金融政策ルールを変更したときの可能性について、主に住宅財に関連する変数を用いて、理論的な考察を行った。複数のショックを与えてシミュレーションを行った結果、金融政策ルールは、個々の場合において、パフォーマンスの改善の可能性は存在しているが、全ての場合において、改善したものは、ほとんどないということが分かった。また、生産にかかわる変数にも反応するように変更した場合、パフォーマンスが改善する可能性があることが分かった。